＊第五列　第1号（1979年2月30日発行）200

＊第五列＋ＯＰＴＩＯＮ　編集・発行　ＴＥＬ＋ＦＡＸ　東京都世田谷区経堂1-8-8経堂駅前ＡＢＣＤＥＦＧＨＩＪＫＬＭＮＯＰＱＲＳＴＵＶＷＸＹＺ

＊第五列テープ第1弾（Meet the 5th Column）
（５Ｃ－００）90分カセットＶ700（送料共）
＊ステープを通って蘇ってる結構（ダビング無料）送信用印字用紙のみ（Ｖ140 ￥9）
＊申しふみを「第五列へのあらゆる問い合わせも受付ます」 〒2020 盛岡市中野１－10－31全野浩見（phone 0196－52－4673）又は〒166 杉並区高円寺南４－41－７水川良２号室 藤本和男（phone なし）或いは〒102 東京都千代田区麹町西入ル大東町10広東桜之（phone 075－463－7723）のどれでもＯＫ
＊We are not in it for the money.

《第五列》－１號への反響のごく一部

第五列お返りいただきありがとうございました。私もこの五月から ドライヴインという物を出ています。同封したします。ドライヴ網の地球表面全域への拡張を企ていたと思い始めています。東北へは来年の４月から予定ヒャラバンしたいと思っています。その節にはぜひとゝろ。身体気象研究所という「仮想の場日のぼやけたフィールド」を創りました。現在30名程で動き始めています。これも組織ではなく、かといって個人の集まりでもない。開放性と夢、個性の（ ）化と独創性の（ ）化とを期待しています。

（田中浦、３月26日消印）

＊第五列のオムニバス読本＊
口巻の周辺は人類の共有物である筈書
B６４頁型12P　$500 円
①事故　（既刊）
②伝説　（近日発売）
③赤詩に関する覚え書き　（仮題）
④四国四巡礼に関する　（仮題）
付中文入格有名無名某氏諸名有無無論ふ多数参加ご面白くてアメリカなどを全文化入格漢投稿・参加者募集！
連絡先：盛岡市新田町10－31、コーポ・アカシア８号室、編集部尾？

前期 「第五列」楽しく読ませていただきました。あなたがたの「過激な姿勢」にいたく感激、小生もおそきながら「思潮演舞」なるものをやってみようと思いたち、悪手のギターを５万円で買い受けて（いろんがうれた気もします）渡米ガッシに参加しました。ほとんどの場合、ほとんどの場合、ほとんどの場合、

「即興的であること」へのメモ

＊「この世に定まっているものは何一つとしてない」からっぽ感、そしてその事自体がすでに矛盾を含んでいるという事への疑問。

＊全て、語り得ぬものを語る為には、傳い語るところから始めなくてはならぬという事に対する意識。

＊その無り。

＊言葉をつかう事のもどかしさ、その苛立たしさ。そしてそれを乗り越える為に、こうして一文字づつ書きつける事の苦しさ。

＊言葉で無くともそれは同じである。

＊手段の選択、方法〜やり方。その提示。

＊行為をして語らしめよ。

＊これといって特別なものが無い所から「何か」が生まれる。

＊その時その場には、ゆらぎ、ゆがみ、かたより、が生まれているだろう。それがきっかけだ。

＊かたよりの中に力学がある。

＊状態は移行する。より流れた方位へ。

＊位置と速度、ベクトル。そして意志。

＊混沌和、不可視の法則。

＊不確定であるという事への不安。

＊意志。

＊私を「私」と命名したものは何か。

＊答えの無い質問、或いは質問の無い答え。

＊或いはそのどちらとも区別し得ないもの。

＊様様な繰り返し。フィードバック。

＊NOISEの、そして可能性の大海。その波打ち際にて。

＊或いは畸形平野。

カツオブシを中心とした粉粧の黒会体（通称オニギリ）は本物の外皮をまとって砂の上に置かれていたというのに私は臭ってしまった（G）

＊ぎれうた＊

夢の日にもエイリアン
記憶ならばドオリアン
像度を予形るはずドモニン。

黒鍋の蛇が一匹
白い紙片を音符に放つ、
神話
と知られた
祓され。

夜道を男が歩いて来る、
透明なガラス箱に包まれて
しかし包げもなく、
死の目は他をとことな見続けている
その耳は他をとことな傾けられている。
地下の居酒屋ではなお待っている、
笑ったなのの目既にチョキは喪が消えた。

「ねえ、そのそっとするような隠し中から出て来てキスしてよ」

「おいらあ、こん中であんたを見てるだけで充分さ」

「キスしてよ！」

「あんたのおのめは見ちゃんあんよは、そうだな、かもしかの足より気をそそるなぁ、ほっつ振ってみなよ…」

「冗談じゃないわ…」

「惜しいことしましたな、あの女はあんたに気があったんだいだが…」

「いやいや、おいらぁ、充分あの無窮花ちゃんを楽しんだよ」

「そうですかねぇ…いやしかし、そのう、あんたはそのガラスの殻心中から出て来られないですかい、随分不自由でしょうな？」

「俺はこれだって七つの海を見て来たんだぜ、この殻のおかげで、しげの時にも溺れずにすんだ、五月雨の時ずだって、深そこれは渡してくれたと、陽にいたいさんは、生存のからだから血を流していたがね…、このガラス殻は内臓からも離れないのさ、そうだ、君、オーロラを見たことがあるか？何かこう、かたどが不一っ、として、ありゃすごいぜ、宇宙の神秘を掌り当てた思いだったな…」

（ガラス殻の男の唄）

「でも見ただけなんですわ？」

「……」

「何なら、あたしが、出られるように手助けしてやっても良いが…」

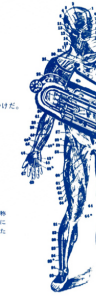
「これは、内側からしか壊れねぇ、って言ってるだろうが！…」

「じゃそろろかから、ぶち壊ってごらんなさいよ」

「俺の手が血に染まるのは見たくねぇ！」

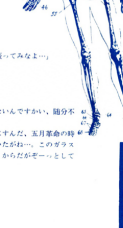
＊

死の街坊原ストランゼ
いとしき遂げきシャンゼリゼ
香り、消えぬ！そぜの香気。



知性は聴かない。聴くのは肉体だ。

(Onnyk)



＊嘘は夢の形。

＊拒否の舟、否定の舟。延い続ける事の意思。

＊そして信号。

＊私は彼方に信号を送り続ける自分を視る。それは私の中に投影された「器官なき肉体」。

＊「見えるもの」から「見えないもの」を演繹する事。

＊夢が欲望のメタファーならば、私は膀胱無き戦いにのぞむ無名兵士の夢を見るだろう。

＊私の見る夢は、型十手の無い信号、打ち手の無い槌。一或いは何も具体的なフォルムを映す事の無い鏡。

＊信号／信号／信号／ＮＯＩＳＥの中から信号を探れ。そして信号の発信地に何があるかを知れ。

＊それは共感できる周波数帯域にあるか？

＊時を選択してはならない。場所もである。「いま、ここ」で全てが始まる。

＊外挿的に系が決定されているのか、自律的に瞬間を決定していくのか、或いは両者の間に違いは無いのか、或いはその中間的な事実があるのか、或いはそれらのうち何れか有る／無いのか。一方法論の意識。

＊意志から「かたち」へ。

＊何かを始めるとき、その代償として何かが失われる。失うべきものは必ず失われるだろう。

＊自らの逃げ道を断ち切るべし。あてどなくさまよえ、天も歩けば……。

＊あからさまに／　自らに傷をつくれ／
それが突破口だ。あからさまに／

＊「方法 ― それ自体」で思考する事。

＊両面をもう一度観察しよう。その辺に信号のカスが残っていないか？

＊終りも始まりも無く、行為は意志に沿ってあるがままになっていく。そこに雇り込んで通り過ぎる信号・ＮＯＩＳＥを見ているのもいいだろう。そのままなら傷つきもしないし、何も起こらない。観念的にやっているうちは逃げ道には事欠かないのだから。

＊不可能性は口実にはならない。

＊……だからといって私は「好きなようにやるがいい」とは言いはしない。納得してはならないものにそう語るのは、すでにそれだけで敗北だ。何を納得するのか、了解するのかを決定する事が私を私たらしめている。